

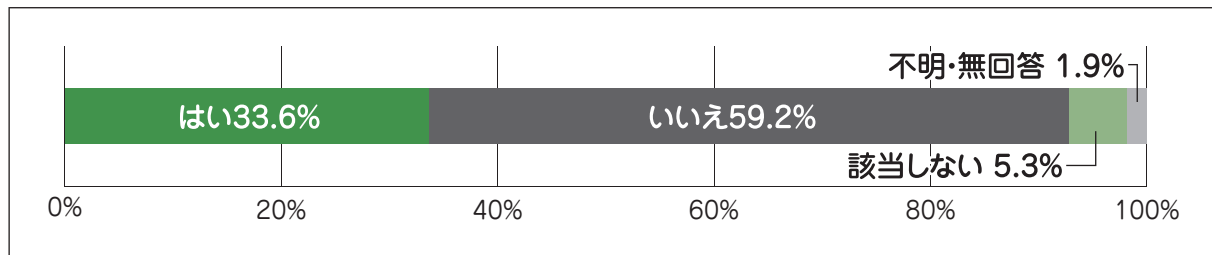
子どもの事故を予防しよう! (浴室編)

国の統計によれば、不慮の事故が子どもの死亡原因の上位となっています。1～4歳では16.0%にもものぼります。その中でも25.7%が溺死及び溺水となっています。(2015/2016「国民衛生の動向」より)

水の事故といえば海や川、プールをまず思い浮かべるとは思いますが、乳幼児の場合は浴室での事故が多くなっています。

● 浴室のドアに関するアンケート調査

※浴室のドアには子どもが一人で開けることができないような工夫がしてあるか。



【配布数1,118枚、回収数904枚、回収率80.9%】

一宮市では、平成27年10月に、乳幼児健康診査を受診した0歳から3歳の乳幼児の保護者を対象にアンケート調査を実施しました。その中で、浴室のドアに工夫がしてあるかについては、「はい」が33.6%、「いいえ」が59.2%と「はい」が少ない結果でした。

火事や地震に備えて浴槽に水を貯めている家庭もありますが、お子さんが小さいうちは、5cm程度の水でも溺れることがありますので、対策をよく考えてください。

対策1 浴室に鍵をつける。

浴槽はたとえ水が入ってなくても深さがあるので、お子さんが中を覗き込んだ拍子に頭から落ちてしまう危険があります。浴室には鍵をつけましょう。

対策2 浴槽に必ずふたを閉める。

残り湯を洗濯に使う場合など、しばらくの間水を浴槽に入れたままにしなければいけない場合は必ずふたをしましょう。



対策3 一人で浴室に放置しない。

お子さんと一緒に入浴しても、お母さんが洗髪中などで目を離してしまった時に浴槽で滑って溺れてしまうこともあるので要注意です。

お子さんだけを浴室に放置するのは厳禁です。

対策4 浴室を子どもの遊び場にしない。

子どもは水で遊ぶのが大好きです。浴室に勝手に入ったり、子どもだけで遊ばせないことが重要です。

子どもは危険に対する判断力が乏しく危険から身を守ることができません。安全な環境整備をすることと、子どもの安全は自分たちが守るという大人の意識が大切です。

消費者庁「子どもを事故から守る!プロジェクト」ウェブサイト

携帯電話用：<http://www.caa.go.jp/m/pc/kodomo/>

パソコン用：<http://www.caa.go.jp/kodomo/index.php>

子どもの事故予防に関する豆知識や注意点などを、メール配信しています。